

# ぐんまの魚の生息環境を考える(1)

## はじめに

平成 21 年の秋に『ぐんまの魚道を考える』シリーズを 12 回に亘って連載した結果、比較的多くの方に読んでいただいたようですので、平成 22 年は魚の生息環境について考えたいと思います。魚の生息環境を考える場合、相当広範囲な分野が対象となりますが、生き物には素人である釣り人の“つぶやき”と思って読んで下さい。

魚の生息環境には、河川流量、水質・水温、避難場所、餌の確保、天敵からの保護、産卵場の確保、回遊路の確保等が広く相互にリンクしています。すなわち、魚が生まれ・成長し・産卵して子孫を残し・種を維持して行くと言った生活のサイクルを円滑に行える環境について考えてみたいと思います。今回は、これらの事項について群馬県内の河川の写真を利用しながらレポートして行きたいと思います。



上の写真は私が好きな釣り場の一つです。魚の生息量は多くありませんが、編隊を組んだカワウの攻撃をかわした、驚くほど容姿端麗な魚体に巡り合えることがあります。

《日本一のアユを取り戻す会 福田睦夫》